公益財団法人京都ＹＭＣＡ

2018 年度事業報告

2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

１、2018 年度事業報告

２、事業概要

３、データ編

公益財団法人京都YMCA

〒６０４－８０８３　京都市中京区三条通柳馬場東入中之町２番地

2018 年度事業報告

2018 年度年間聖句

「正義を洪水のように恵みの業を大河のように尽きることなく流れさせよ。」

旧約聖書　アモス書　5 章 24 節

2018 年度事業計画

自然体験や、スポーツ活動、文化活動を通して、プログラムに参加する一人ひとりの全人格的な成長を促し、健やかな心と体を育みながらたくましく成長をはかる活動を展開する。
プログラムを通していのちを守ることの大切さを学ぶとともに、生涯にわたって生き生きとした人生を歩み、社会の一員として貢献できるように指導する。

① ＹＭＣＡのブランド再構築に伴い各事業の見直しを行い、地域のニーズに応えるプログラムとして事業の再編に着手する。
② ユーススポーツ事業において水上安全キャンペーンを行いＹＭＣＡウォーターセーフティハンドブックを近隣の小学校に配布する
③ 病児及び発達障がい児の支援プログラムを充実させる
④ 共働き家庭やひとり親家庭の子育て支援として、保護者が帰宅するまでの時間を安全に過ごせる居場所としてのアフタースクールの拡大と充実を図る。
⑤ 高齢者が元気で健康的な生活を送ることができることを目指したプログラムの拡大を図る。

こどもから大人まで全ての人がボランティアを通して地域社会ならびに国際社会に貢献することができるように、ボランティアを育成し、ボランティアの手による地域社会および国際社会への貢献事業を進める。

① ＹＭＣＡブランドコンセプトに基づいてプログラムの見直しを進める
②地域課題に取り組む新たなプログラムの開発に着手する。
③グローバルな視野を持ちリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
④ボランティアセミナーや啓発プログラムを通じてボランティアの拡大を行う。
⑤公益活動のための寄附金拡大を図る。

乳幼児の成長過程において必要な情緒的、身体的、知的体験教育を、保育事業を通じて統合的に推進するとともに、共に支え合う地域社会の実現を展望しつつ、子育てボランティアの育成なども含む広範な子育て支援事業を展開することで、乳幼児期の子どもたちの健全な成長及び発達を促す。

① 保育事業を開始し、運営を安定させる。
② 地域ニーズに合った独自性のある保育園として内容の充実を図る
③ 全国のＹＭＣＡ保育園と連携し、ＹＭＣＡのブランドコンセプトに沿った保育を行う

2018 年度を振り返って

2018 年度は、京都ＹＭＣＡの創立 130 周年目を迎えた。前年秋から行われていた三条本館の耐震補強工事と保育園の設置工事が終了し、リニューアルした建物と施設での新しい年度の事業がスタートした。

4 月からは、公益事業として子育て支援事業が加わりＹＭＣＡ三条保育園が開園した。保育園事業を始めたことで建物の使い方も変わり、さらにスタッフの移動に伴い京都ＹＭＣＡの事業全体での様々な変更を進めることとなった。

さらに全国のＹＭＣＡで進めているＹＭＣＡブランドの再構築に合わせて京都ＹＭＣＡでもロゴマークの変更や、表出アイテムの変更、ユニフォーム等の変更など、全国ＹＭＣＡとの歩調を合わせる取り組みを進めてきた。

この様に建物の変更だけでなくこれまで行ってきた事業の内容のリニューアルや新たな事業の開始も含めて、京都ＹＭＣＡの新しいスタートを切る年度となった。

以下に 2018 年度の特徴的事柄を記す。

〔公１　こどもから大人までの健全な心身の発達を促進するウエルネス事業〕

日常プログラムの事業登録者は 1,669 名と前年同時期と比較して 129 名増加した。

事業別でみると青少年事業では、ユーススポーツ全体で 121 名参加者増となっており、内スイミングクラスが 51 名増であった。一方野外活動は、5 つのチームに分かれて活動しているが、全体的に減少し、前年比 40 名減となった。知的発達障がい児の支援プログラムのサポートプログラムにおいても、減少しており前年比 13 名減となっている。成人ウエルネス事業は前年比 61 名増となった。

年代別にみると成人・青年のウエルネス事業参加者は、39 歳までの年齢層が減少し（17 名減）、40 歳以上の高年齢層は増加した（78 名増）。これは、2017 年度に行ったプール改修工事や本館の耐震補強工事で使えなかったことで一時減少した成人会員が戻ってきてくださったこと、近隣のプール施設をもつフィットネスジムの閉鎖による影響も出ていると考えられる。少年では、小学生の昨年度までの減少傾向が回復し、前年比 88 名の増加となった。

また、講習会の参加者は、夏期プログラムでは夏期キャンプが 417 名となり前年の 533 名から 116 名減少した。夏期講習会は 39 名増となり、夏期プログラム全体で前年より 77 名の減少となった。

それに対して、冬期・春期プログラムは、昨年 300 名近く減少したが、今期は前年の 687 名から 696 名と若干ではあるが回復傾向となった。ウインターキャンプが前年の 408 名から 267 名と 141 名減らした。これは、人員体制が整わずプログラム実施数自体を減らしたことによる。春期プログラムについては 279 名が 429 名と 150 名増加

させることができた。これは、2017 年度は春休みの水泳講習会を行わなかったことにより、一時的に減少した会員数が回復したことによる。その結果、冬期・春期プログラム全体では、9 名増となり、減少傾向に歯止めをかけることができた。成人講習会では、高齢者筋トレ教室は好調で 99 名の参加者増となった。

今年度も高齢者の筋力トレーニングプログラムは、多くの高齢者が参加し毎回定員に達しており地域の高齢者の介護予防のプログラムとして行われている。

京都府立医大の子ども病棟に長期入院している病気の子どもたちを毎月訪問している病児訪問プログラムでは毎月のプログラムに加え 5 月に春のコンサート、7 月に南観音山保存会のお囃子の協力を得て夏祭り、8 月に大文字送り火鑑賞会、10 月に秋のコンサートを行った。また、今年も子どもたちを水の事故から守るためのキャンペーンを実施し、6 月 17 日には「いのちを守る水泳講習会」として一般の方を対象に無料で着衣泳講習会を開催した。毎年行っている台湾から青年を招いて全国のＹＭＣＡでのキャンププログラムのカウンセラーとして受け入れる International Camp Counselor Program in Japan に京都ＹＭＣＡでも 1 名の台湾のユースを受入れ、サバエ教育キャンプ場でキャンプのリーダーとしてのトレーニングとキャンプ参加者との交流を行った。

16 回目となる発達障がい児理解セミナーを 2 月に開催し、約 30 名の参加者が発達に障がいのある子どもの支援についての講演を聞きに集まった。

この様に京都ＹＭＣＡの様々なプログラムに参加することで子どもたちが多くのボランティアに触れ、様々な国際的視野を広げる機会を通して子どもたちの成長を促す活動を進めている。また成人のプログラム参加者へも京都ＹＭＣＡの活動への理解を深める働きかけを通じて奉仕活動基金や国際協力募金への理解と協力をいただいた。

〔公２　ボランティアによる地域社会及び国際社会への貢献活動〕

2018 年度も府民を対象としたいくつかの地域サービスプログラムが行われた。

7 月 22 日に京都府北部豪雨災害支援のため、綾部市災害ボランティアセンターにおいて京都ＹＭＣＡより災害ボランティア 7 名が現地で復興支援を行った。

8 月には中京中学校を会場に開催された「中京区民ふれあいまつり」でボランティアビューロー専門委員会が、視覚障害者の手引きの講習のブースを担当し、通りがかった多くの方々が視覚障害者の手引きを体験された。

9 月 29 日に同志社大学新町キャンパスで行われた「第 8 回ＡＩＤＳ文化フォーラム in 京都」に今年も京都ＹＭＣＡが事務局として運営協力し、開催当日も京都ＹＭＣＡから多くの会員が運営ボランティアとして参加した。9 月 30 日は台風の影響で中止となった。10 月には、社会セミナーとして「認知症サポーター養成講座」を開催し、30 名を超える参加者があった。

また、10 月には 4 回目となる台湾の台中ＹＭＣＡと韓国の仁川ＹＭＣＡとの３ＹＭＣＡ

合同会議が今年は仁川ＹＭＣＡで開催され京都ＹＭＣＡから役員、スタッフ計 8 名が参加し、パートナーシップを通じての今後の協力関係についての協議を行った。

11 月に毎年ＹＷＣＡと共同で開催しているＹＭＣＡ／ＹＷＣＡ合同祈祷週集会として今年は京都ＹＷＣＡを会場に「日野原重明さんからのファイナルギフト」を共同開催し、約 50 名の参加者が講師の発題を受けていかに生きるかの問題について共に考える機会を持った。

12 月に毎年行っているクリスマスロビーコンサートは、3 日間おこない、京都聖母学院中学高等学校のハンドベル部のハンドベル演奏会などがおこなわれた。

2018 年度も国際プログラムがいくつか実施された。

11 月に毎年行っている国際協力街頭募金は、200 名の奉仕により、市民より 234,458 円の募金をお預かりした。ネパールＹＭＣＡが行っている児童養護施設支援のためのチャリティーバザーも今年度は 2 月 11 日に開催し、当日はバザーのことを聞いた近隣の方々や毎年来ておられる方々など多くの方が来館された。

登録ボランティアグループの活動としては、5 月 24 日には、視覚障害者への朗読ボランティアを行っている「長岡こおろぎ」の第 55 回長岡こおろぎふれあいの会が開かれリスナーとボランティア 58 名が参加し和束町へ、また、第 56 回は京北町で秋のひと時を 50 名の参加者で楽しんだ。同じく「ＹＭＣＡこおろぎ」は 9 月に日吉ダムでのふれあい広場を開催し、同じく 60 名が参加しふれあい会を楽しんだ。

創立 130 周年を記念して 2 月に烏丸京都ホテルにて創立記念会員集会を行い京都市子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部部長の上田廣久氏に講演をいただき 80 名以上の会員及びＹＭＣＡ関係者が集まった。

3 年前から全国のＹＭＣＡで進められてきたいじめ撲滅のためのキャンペーン「ピンクシャツデー」が今年も全国的に展開された。京都ＹＭＣＡでは、２月 28 日を中心に「ピンクシャツデー」のイベントを行った。

〔公３　子育て支援事業としての保育園〕

京都市の要請を受けて準備を進めてきた子育て支援の事業としての保育園が三条本館 2 階部分を使って４月からスタートした。

４月 1 日に入園をお祝いする会を開催し、新たに初年度 43 名の園児を迎えての保育園が始まった。

6 月 3 日には近隣住民、保育園関係者及び京都市関係者、ＹＭＣＡ会員、関係団体を招いてお披露目を兼ねた開園感謝会を開催した。

初年度と言うことも有り初めてのことが多い中でＹＭＣＡらしい保育園としてゆくための様々な行事が行われた

プログラムとしては、3 歳児以上の園児を対象に 6 月からＹＭＣＡ三条本館のプールを使っての水に親しみ水に慣れるとともに水中運動を楽しむためのスイミングプログラム及

び地下ホールを使って体を動かすことを楽しむための体操教室が始まった。

また、季節ごとの自然に触れるとともに自然の中でのびのびと遊ぶために 5 月、11 月、3 月に宇治市笠取にある京都ＹＭＣＡリトリートセンターに行って遊ぶハイキングプログラムを行った。

また、2 月には、京都市保育園連盟の所有する八瀬の野外センターに出かけて冬の野外プログラムを実施した。

11 月のリトリートセンターでのハイキングプログラムには、京都ＹＭＣＡを支援する京都ワイズメンズクラブが協力し当日のボランティアとしても同行してプログラム協力を得て行った。

日本社会の外国人が増えてきている状況や地域性もあるだろうが、入園して来る子どもたちには様々な国籍や文化的背景を持って入園して来る園児がいる。
ＹＭＣＡの目指す多文化共生社会の実現を目指して、1 月からは京都ＹＭＣＡの英語学校の講師による「英語で遊ぼう」プログラムを月１回のプログラムとして始めた。

また、保育補助として京都ＹＭＣＡ国際福祉専門学校で日本語を学んでいる留学生に入ってもらい、留学生との交流も行っている。
ボランティアの関わりという事では、京都ＹＭＣＡの朗読ボランティアグループこおろぎのメンバーに来ていただいて、子どもたちに絵本の読み聞かせをしてもらうプログラムも行った。

障がい児の受け入れでは、今年度は年間で 5 名（うち 1 名はアレルギー児）の園児を受け入れるとともに、12 月には、1 カ月間母親の出産に伴う広域入所で城陽市から障がい児を１名の受け入れを行った。

園児数は新設園という事で当初 43 名でのスタートではあったが、中京区で京都ＹＭＣＡの会館を使っての保育園という事で地域的なニーズもあるのか、開園後見学希望ならびに入園希望が相次ぎ、特に 0 歳児 1 歳児は引っ越し等で空きが出てもすぐ入園者が出るということで期待の高さを感じた。

ただ、3 歳児以上は、途中入園もなかなか増やすことはできなかったものの年度末の時点で 56 名の園児数となった。

その間引っ越し等家庭の事情で退園した園児が 4 名いたため 17 名の入園者がいたことになる。